

2023年10月19日

第17回 ORION 会議 議事録

日時：2023年9月18日（月・祝） 14:00～15:40

現地会場：岡山コンベンションセンター／オンライン併用

参加者：《五十音順》

上原 健司先生（岩国医療センター）、石川 慎一先生（姫路日赤病院）、植田 健一先生（亀田総合病院）、大橋 一郎先生（川崎医科大学総合医療センター）、奥 格先生（岡山赤十字病院）、川西 進先生（津山中央病院）、鬼頭 英介先生（高知医療センター）、熊野 夏美先生（岩国医療センター）、斎藤 智彦先生（岡山ろうさい病院）、谷西 秀紀先生（岡山日赤病院）、築地 崇先生（高砂市民病院）、戸田 成志（香川労災病院）、難波 研二先生（岡山済生会総合病院）、日高 秀邦先生（福山市民病院）、藤井 洋泉先生（岡山市立市民病院）、前島 亨一郎先生（川崎医科大学）、安川 毅先生（岡山旭東病院）、山岡 正和先生（姫路日赤病院）

森松 博史、岩崎 達雄、松岡 義和、金澤 伴幸、鈴木 聡、荒川 恭佑、岡原 修司、伊加 真士、片山 明、佐倉 考信、成谷 俊輝、木村 貴一、吉田 翼、松岡 勇斗、友實 桃子、安田 寛子、中村 美香、宮中 桃子、森脇 好子、山下 香織、清水 達彦（文責）

～協議事項～

(1) 「分離肺換気を要する肺切除術における制限酸素療法の効果の検討」の進行状況（鈴木 聡）

【要旨】

現在当院では手術中の酸素療法に関する単施設の RCT が進行中である。対象患者は肺腫瘍の肺切除術施に対して全身麻酔下に分離肺換気を必要とする成人患者で、手術中の SpO₂ ターゲットについて、介入（＝制限）群では 90-94%、従来（＝非制限）群では 96%以上に設定し、吸入酸素濃度を調節するものであり、主要評価項目は術後の非手術側の無気肺スコアである。

9月8日現在の進行状況としては、81%の到達率（137名同意取得/170名予定）で予定通り進行中で、同意取得率は74%と高水準を維持できている。この理由としては、当科所属の臨床研究コーディネーターの存在が大きいのと考える。術前外来における対象患者のピックアップ、補助IC、書類管理、データ入力、患者のフォローアップなど多岐にわたる業務を担っており、今後の臨床研究の遂行においても重要な役割を担ってくれることが予想される。

(2) 「EMAGIc トライアルの現状報告」（伊加 真士）

【要旨】

EMAGIc トライアル（低侵襲胃切除術の術後鎮痛に関する検討）は2023年5月より本格的に研究開始となった。現在のところ、全研究協力施設の登録数は8件（岡山済生会病院1件、広島市民

病院1件、高知医療センター6件)である。登録症例数がなかなか増えない原因として、症例登録から手術日までの期間を30日に設定していたため、手術室の混雑具合によっては期間内に手術日を設定できない場合があることが考えられた。研究計画書を修正して、上記期間を60日に延長している。各協力病院において、現状目立った問題点は見られていない様子である。キックオフミーティング時点で寄せられた疑義に追加して、現在までに寄せられた追加2件の疑義に関して周知した。

(3)「下肢人工関節置換術における心拍変動解析モニタリングを使用した術中鎮痛管理群と非参照群との術中麻薬使用量に関する前向き無作為化対照試験」(松岡 勇斗)

【要旨】

HFVI ; High Frequency Variability Index とは、心拍変動解析によって得られた周波数のうち副交感神経活動の指標となる高周波成分を元に数値化した無単位指数で0~100で表示され、快適性が高まり副交感神経活動が活発になると数値が上昇する。下肢人工関節置換術における HFVI を使用した術中鎮痛管理群と非参照群との術中レミフェンタニル使用量に関する前向き無作為化比較試験の計画について発表した。また倫理委員会申請に向けて、臨床研究法に基づく臨床研究または医学系指針に基づく臨床研究のどちらに分類されるかという点において、麻酔・蘇生学教室所属の臨床研究コーディネーターや新医療開発研究センターの協力を仰ぎながら進めている現状について報告した。

■アナウンス

- 森松)・制限酸素療法に関する研究のように、前向きの RCT については医師のみでの実施は難しいことが多く、CRC の導入を進めようとしている。
- ・HFVI については、適応の面から研究デザインの設定が難しい部分もあるが、まだ分からない部分が多いため、ひとまず麻薬の減量につながるかどうかを調べる方針にしている。
- ・次回開催は 2024 年春の予定

以上